

予防接種を受ける前によくお読みください。

予防接種は体調のよい時に受けるのが原則です。お薬を飲んでいたり、体調が悪いと思ったら、かかりつけ医に相談のうえ、接種をするかどうか判断しましょう。

(2021-4-1)

令和3年度 日本脳炎の予防接種を受けるにあたっての説明書

泉南市立保健センター
TEL 482-7615

日本脳炎について

日本脳炎ウイルスの感染によっておこる中枢神経（脳や脊髄など）の病気です。ヒトからヒトへの感染はなく、ブタなどの動物の体内でウイルスが増殖したあと、そのブタを刺した蚊などがヒトを刺すことによって感染します。症状が現れずに経過する場合がほとんどですが、症状がでる場合には、6～16日の潜伏期間の後、高熱、頭痛、嘔吐などで発病し、意識障害（意識がなくなること）、けいれんなどの中枢神経系障害（脳の障害）を生じます。

大多数の人は、無症状に終わりますが、脳炎を発症した場合は20～40%が死亡に至る病気といわれています。

受け方（特例対象の方以外）

予防接種名	対象年齢	受け方
日本脳炎	＜第1期＞ 3歳の前日から 7歳6か月の前日まで	＜第1期 初回接種：2回接種＞ 6日以上、標準的には28日までの間隔をあけて2回接種 ＜第1期 追加接種：1回接種＞ 初回接種終了後、6日以上、標準的には1年後に1回接種
	＜第2期＞ 9歳の前日から 13歳の前日まで	＜第2期＞ 対象年齢内に1回接種

* 平成17年5月の積極的勧奨差し控えにより下記の特例対象者①②に該当する方は、それぞれ下記の接種方法で、不足分の接種を定期接種として受けることが可能です。

特例対象者①の方：平成13年4月2日生～平成19年4月1日生で、20歳未満の人

4回の接種を受けていない人は、20歳未満であれば定期接種として残りの回数分を受けることが可能です。

特例対象者①の方の接種方法

特例対象者①の方の 日本脳炎第1期の接種歴	その後の接種方法（20歳を迎えるまでに）
第1期で1回のみ受けた人	○2回目と3回目を6日以上の間隔をあけて接種 ○4回目は、3回目との接種間隔を6日以上あける★
第1期で2回受けた人	○まず3回目を接種 ○4回目は、3回目との接種間隔を6日以上あける★
第1期で3回受けた人 （第1期が終了している人）	○4回目は、3回目との接種間隔を6日以上あける★
第1期を全く受けていない人	○6日以上、標準的には28日までの間隔をあけて2回接種 ○3回目は、2回目接種から、6日以上、標準的には1年後に1回接種 ○4回目は、3回目との接種間隔を6日以上あける★

特例対象者②の方：平成20年4月2日生～平成21年10月1日生で、9歳以上13歳未満の人

第1期が終了していない人は、第2期の対象年齢（9歳以上13歳未満）時に、第1期の未接種分を定期接種として受けることが可能です。

特例対象者②の方の接種方法

特例対象者②の方の 日本脳炎第1期の接種歴	9歳になってから 第2期（9歳以上13歳未満）時の接種方法
第1期で1回のみ受けた人	○2回目は、1回目接種から、6日以上あけて接種 ○3回目は、2回目接種から、*6日以上、標準的には1年後に接種 ○4回目は、3回目との接種間隔を6日以上あける★
第1期で2回受けた人	○3回目は、2回目接種から、*6日以上、標準的には1年後に接種 ○4回目は、3回目との接種間隔を6日以上あける★
第1期で3回受けた人 （第1期が終了している人）	○4回目は、3回目接種から、6日以上あけて接種
第1期で全く受けていない人	○6日以上、標準的には28日までの間隔をあけて2回接種 ○3回目は、2回目接種から、6日以上、標準的には1年後に1回接種 ○4回目は、3回目との接種間隔を6日以上あける★

*ただし、平成22年3月31日までに、第1期接種歴が1回または2回ある方は、2回目接種から6日以上あけて3回目を接種。

裏面の★は、法令の規定では接種可能とされていますが、第1期の接種を3回受けた人は、4回目の接種は3回目の接種からおおむね5年から10年毎に接種することで脳炎の発症を予防することが可能なレベルの抗体が維持されることが期待されますので、接種時期はこれらを総合的に勘案して実施することが望まれます。

■乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン(不活化ワクチン)

乾燥細胞培養日本脳炎ワクチンは、日本脳炎ウイルスをベロ細胞（アフリカミドリザル腎臓由来株化細胞）で増殖させて、得られたウイルスを採取し、ホルマリンで不活化（感染性を失くすこと）して製造されたワクチンです。

■日本脳炎ワクチンの副反応

国内ではベロ細胞を用いて製造される初めての医薬品となり、海外では他の細胞培養ワクチンにおいてもADEM発症例が報告されています。乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン（ジェービック）では、生後6月以上90月未満の小児で123例中49例（39.8%）に副反応が認められました。主なものは発熱（18.7%）、せき（11.4%）、鼻みず（9.8%）、注射部位紅斑（8.9%）で、これらの副反応のほとんどは接種3日後までにみられています。また、乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン（エンセバック）では、163例中84例（51.5%）に副反応が認められ、主のものは発熱（21.5%）、注射部位紅斑（16.6%）、せき（8.0%）、注射部位腫脹（6.7%）、鼻みず（6.7%）、発疹（5.5%）であり、これらの副反応のほとんどは接種3日後までにみられています。その他に、ショック、アナフィラキシー様症状、ADEM、脳症、けいれんなどの副作用がみられることがあります。

※ADEM（急性散在性脳脊髄炎）…ウイルス感染後、あるいはワクチン接種後に、まれに発生する脳神経系の病気です。ワクチン接種後の場合は、通常数日から数週間程度で、発熱、頭痛、けいれん、運動障害などの症状がでます。ステロイド剤などの治療により、多くの患者さんは正常に回復しますが、運動障害や脳波異常などの神経系の後遺症が10%程度あるといわれています。

■日本脳炎予防接種を受けることができないお子さん

1. 明らかに発熱（通常37.5℃以上をいいます）のあるお子さん
2. 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかなお子さん
急性の病気で薬を飲んでいるお子さんは、その後の病気の変化もわからないことから、その日は接種を受けないのが原則です
3. その日に受ける予防接種の接種液に含まれる成分で、アナフィラキシーを起こしたことがあることが明らかなお子さん
4. その他、医師が不適当な状態と判断した場合

■接種前の一般的な注意

1. 体の調子に注意して、熱はないか、かぜ、下痢、その他の病気にかかっているか、普段と違ったところはないかなど健康状態をよく確かめ、健康なときのみ受けてください。
2. 感染症が治ってから、予防接種を受けるまでのあける期間は、かかりつけ医とご相談ください。
3. すでに配布済みの「予防接種と子どもの健康」ならびにこの説明書をご熟読ください。予防接種の効果や副反応、および※予防接種健康被害救済制度などについて理解したうえで、接種に同意したときに限り、接種を行います。
4. 予防接種は、その病気にかからないことを目的としていますが、お子さんの体質、その時の体調などによって免疫ができないこともあります。ワクチンによって得られる免疫の陽転率はワクチンの種類によっても異なりますが約90%前後だといわれています。

■接種後の注意

1. 予防接種を受けたあと30分間程度は、お子さんの様子を観察し、医師とすぐに連絡をとれるようにしておきましょう。
2. 法改正に伴い、令和2年10月1日から、日本脳炎予防接種（注射不活化ワクチン）から他の予防接種を受ける場合（例：日本脳炎から四種混合）の接種間隔の制限はなくなりました。同じワクチンを複数回接種する場合（例：日本脳炎1回目から日本脳炎2回目）は、現行どおり、規定の接種間隔をあけてください。
3. 当日の入浴は、さしつかえありません。当日のはげしい運動をさけましょう。

※予防接種健康被害救済制度について

- 定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでるような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償を受けることができます。
- 健康被害の程度等に応じて、医療費、医療手当、障害児養育年金、障害年金、死亡一時金、葬祭料の区分があり、法律で定められた金額が支給されます。
- ただし、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因（予防接種をする前あるいは後に紛れ込んだ感染症あるいは別の原因等）によるものなのかの因果関係を、予防接種・感染症医療・法律等、各分野の専門家からなる国の審査会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に補償を受けることができます。
- 予防接種法に基づかない接種（任意接種）で健康被害を受けた場合は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づく救済を受けることになりますが、予防接種法に比べて救済の額が概ね二分の一（医療費・医療手当・葬祭料については同程度）となっています。